

契約打ち切りの事例

2021年9月12日

出版ネッツ

【期間の定めがある契約】

- 1 3年間程年間契約で請け負ってきた翻訳の仕事。某企業から編集プロダクション経由で、私は編集プロダクションと契約したのだが、親会社（某企業）の態勢が変わり、経費などを大幅削減することとなり、今年来るはずだった仕事が来なくなってしまった。（編集、執筆・取材、翻訳・通訳、コピーライティング）
- 2 1年契約を5回更新して雑誌編集部で、月額固定で働いていた編集・ライター（常駐フリー）。専用デスクもあり社員同様に働いていたが、取材先からのクレームを理由に突然契約打ち切りに。団体交渉で、①一方的解約の撤回と合意解約への変更、②契約期間を2か月間延長する形にしてその分の支払い、で解決。その出版社では今後、「即時解約」の場合には3か月分の報酬を支払うようにするという確約も得られた。（編集、執筆・取材）
- 3 出社での校正業務。募集要項に1年間とあったが、途中で仕事の出来に明らかに嘘とわかる難癖をつけられてクビになった。雇用ではなく、一時的な業務での大量募集だったため、まとめ役の男性社員の気に入らないことがあると簡単に切っていた。作業する部屋の入り口に「以下の者は来週から来なくていい」という貼り紙が頻繁に貼り出され、クビになるときも数日前の告知だった。応募者は履歴書を提出させられたが、まともな契約書はなかった。（校正・校閲）

【継続的発注】

- 4 定期案件が、その作業内容の重さと報酬のバランスが悪いことを発注側に相談したところ、発注されなくなった。（デザイン）
- 5 主要得意先の毎月の定期仕事が打ち切りとなった際、その仕事を担当していた社員にその得意先から秘密裏に当社に来ないかと引き抜きがあった。社員は断ったが、それ以後、打ち切りとなった定期仕事以外の仕事の発注も一切なくなった。（編集、執筆・取材、コピーライティング）
- 6 WEBサイトのデザイン・更新業務を行っていましたが、クライアントが発注先に一本化するとの理由で、一方的に取引を打ち切られました。そのクライアントの業務がオンコールワークの性質が強く、多くの時間をそちらに割いて対応していたため、8割を占める状態でしたが、突然の打ち切りにより売上額が急落し、非常に困惑しました。（デザイン）
- 7 突然レーベルが休止するといわれ、連載していた漫画の原稿を納品したにもかかわらず原稿料の振り込みがされなかった。口約束ですが、単行本の約束も全部なかったことにされました。（イラスト・マンガ）

- 8 作品が売れなかった事を漫画家のみの責任として一方的に打ち切りを決定する。(イラスト・マンガ)
- 9 月刊誌の校閲を6年ほど行ってきた。消費税込みの金額だったので「消費税を上乗せしてほしい」と交渉したところ(実質の値上げ要請)、その月は、消費税を上乗せしてくれたが、次号で仕事は打ち切りと言われた。理由は、「外注をやめて社内でやることになった」と言っていたが、そのころの編集部の忙しさから推測するに、本当の理由は、消費税をのせてと依頼したことなのではないかと疑っている。理由が本当かどうかを調べるすべもなく、受け入れるしかなかった。定期的な収入が打ち切られることは、非常に大きな打撃を受ける。(編集, 執筆・取材, 校正・校閲)
- 10 受け持っていた雑誌が休刊になった。発表から休刊まで3か月。会社には他に校閲の行き場はないから、ということで首を切られた。今考えると退職金要求すればよかった。(編集, 校正・校閲)
- 11 基本的に口約束、雑誌立ち上げに際し、「3号で廃刊にされては困る」と言ったら「こちらも社運をかけているのでそれはない」と返答されたがまんまと3号で廃刊。人集めなどで赤字をこうむった。(校正・校閲)
- 12 継続的に取引をしていたにもかかわらず、事前の知らせもなく急に仕事がこなくなった・もしくは半分以上に減った。(A社は吸収合併され会社自体がなくなった。B社は業績悪化により、既存の事務所も閉鎖され完全在宅勤務になり、社員も減った。C社はM&Aで子会社化された後コロナの影響を受け、発注自体が少なくなっている。) 業界的に厳しいのかもしれないが、M&Aで多重下請け化が進んでいる。上流の企業は仕事をせず下請けに丸投げ。(校正・校閲, 翻訳・通訳)
- 13 週刊誌に連載を持っていたが、何回目かの原稿を送ったあと急に連絡が途絶え、こちらから連絡してみるとその原稿はボツにしたという。理由を聞いてもはっきり言わず、よくわからない理由で連載がストップしてしまった。(ライター)
- 14 同じ媒体の仕事を何年も続けて、現場での責任も明らかに重くなったので報酬アップをかけたところ逆ギレされ、いきなり契約を切られかけた。(校正・校閲)
- ※常駐フリーで、契約期間の定めはないケース。
- 15 就業先で研修期間を経てレギュラーとして同僚に紹介された後、契約打ち切り宣告された。十分な研修を受けない、また引き継ぎ内容も乏しい状態なのに戦力外とされた。(翻訳・通訳)
- ※常駐フリーで、契約期間の定めはないケース。

【単発発注】

- 16 依頼後、ラフ等打ち合わせ途中でプロジェクトの打ち切り決定連絡を受けた。(編集, 執筆・取材, デザイン, イラスト・マンガ, 撮影)
- 17 締め切りが設定されて進めていたものが、突然保留や保留の旨の連絡もなく放置。案件によっては何年も音沙汰がなくなる。進めていたところまでの作業料は請求できず。(デザイン)
- ※「時期を特定しない延期、放置」であっても、契約をまっとうされない点で「契約解除=キャンセル」と判断した。
- 18 某出版社から受注した書籍の制作に関して、表紙デザインのやり直し指示が繰り返され、やり直しの理由も合理的な説明がなかったため、異議を申し立てたところ、途中で仕事を取り上げられた。その時点で2本の仕事が動いていたため、2本分の納品したところまでを請求したが受け取りを拒否された。金額が約130万円と大きかったため、弁護士を立てて争い(裁判までは行っていない)、約70万円で和解した。(編集, 執筆・取材, コピーライティング)
- 19 海外取材に行っていたと言われて1週間ほど日程を空けていたのに、出発の数日前に「やっぱり行かなくていい。日本でできる作業をしてほしい」と言われた。当然その取材期間は予定を空けていたので、仕事が入れられず、見込んでいた収入も得られなかった。(編集, 執筆・取材)
- 20 2~3日かかる校正業務を依頼されたので、スケジュールを空けて待っていたが、一向に連絡がない。そこで、問い合わせのメールを送信したところ、結局内部で済ませた旨、返信された。他の仕事を断って空けたスケジュールだったので、結局、2~3日分の損害になってしまった。(執筆・取材, 校正・校閲)
- 21 海外の翻訳会社と契約、東南アジア観光関連の翻訳プロジェクト社員として採用されたが、コロナ禍により顧客(観光サービス企業)需要がなくなったため、プロジェクトは中止、代わりの仕事も紹介されていない。(翻訳・通訳)
- 22 制作途中でのキャンセルだが、こちらの責任と一方的な理由づけで支払いを拒否。(デザイン, イラスト・マンガ, 撮影, コピーライティング)
- 23 初めて仕事をするようになった版元。ある翻訳物の訳者から預かっていた企画書を見てもらい、企画が通ったら編集は請け負うという話になっていた(電話)。心算をしていたが、実務開始前に「こちらでやることにします」と連絡があった。企画書自体が翻訳家によるもので、結果的に橋渡しをしただけの格好になったことは仕方ないが、「編集をお願いします」という言葉が、いともかたんに反故になってしまい、残念な気持ちになった。(編集)
- 24 著者と進めていた案件が、著者の意向が変わったことによってキャンセルになりました。(編集)

- 25 カタログ掲載の商品についてのコピーライティングの仕事で、具体的な指示（商品情報、デザイン例、訴求ポイントなど）がなく、スケジュールも変更。やり直しを命じられたが、一方的に打ち切られ、原稿料も未払い。抗議したら、「別の仕事で埋め合わせる」との返事で逃げた。（執筆・取材，校正・校閲，コピーライティング）
- 26 外注で漫画編集を請け負っていた。原作者と会社とのトラブルがあり、編集長から一方的に契約打ち切りを告げられた。一部の報酬も支払われなかった。（編集）
- 27 2週間ほどかかる書籍の校正を頼まれ予定をあけていたが、近くなって著者の原稿が大幅に遅れたとの理由でいったんキャンセルになった。このようなことは枚挙にいとまがない。（校正・校閲）
- 28 原作がある本の校正を依頼されたが、原作者と執筆者との間で何かトラブルがあったようで、仕事自体がなくなった。（校正者）
- 29 半月程度の納期での校正を依頼され、多忙な時期だったが無理してスケジュールを調整して日程をあけて待っていた。しかし約束の日になってもゲラが送られてこなかったため確認すると、外注するのはやめたとのことだった。一方的なキャンセルのうえ、連絡すらしてこない悪質な例。（校正者）
- 30 所属組合が発行しているメンバーリストを見たという地方の会社から仕事を発注され、スケジュールリングまですませたところで突然返信が来なくなり連絡不能に。その後、そこの仕事を同じリストに載っている別の校正者が依頼されたと知った。仕事を断る自由はあるにせよ、理由も告げず突然音信不通になるのは言語道断。常識もビジネスマナーも何も知らない非常に若い担当者だった。（校正者）
- 31 大元の版元より昨年11月に契約書を交わしたにもかかわらず、今月いきなり版元の方針で外部に依頼できないと契約解除の意向を伝えられ、音信不通になりました。おかげで生活困窮に。（校正・校閲）

【その他、契約形態は不明など】

- 32 プロジェクトを育てた途端に担当を社員へ変更されそうになった。（編集，執筆・取材，デザイン，イラスト・マンガ，撮影）

※単発発注か継続発注かは不明。

- 33 版元からの直接請け負った仕事で、依頼された仕事（取材、執筆）を行い、納品したのはいいが、担当編集者がうつ病となり、仕事の続行が困難となり、結局仕事がなくなった。仕事はしているので、原稿料等を要求したところ、組合が入る形で、支払われる形にはなったが、思ったほどの出来でなかったというようなことを言われた挙句（ただし原稿内容はほかの組合員に確認してもらい、

版元が言うような酷い内容ではない、という判断であり、執筆は編集者もいることで、編集者が思った原稿になるように伝えていない責任もあるという話で、それについては版元側が謝罪)、こちら側から要求しなければ一言も原稿料等の話がなかった。(執筆・取材, 撮影)

※出版社の都合で原稿が使われなかった場合の報酬に関する事例(いわゆるキルフィーの事例)だが、出版するところまでを契約と考え、契約不履行(打ち切り)にあたると思われる。

34 編集者のミスをこちらのせいにされ、一方的に打ち切られた。「あなたなら言わなくてもわかるといった伝達しなかったこともこちらのせいにされ、人格を傷つけられた。(執筆・取材)

※単発発注か継続発注かは不明。

35 アルバイト採用で研修を受け、その後「在宅索引契約書」を締結し、在宅で論文索引づくりの作業を行っていた。会社に呼び出され高圧的指導(パワハラ)を受け、メールで是正を求めたら契約を打ち切られた。(編集)

(注)「トラブル事例アンケート調査」(2021年8月21~31日実施)、トラブル相談事例、その他より